

タイトル：介助量を数値化する意味とは？
～移乗2名介助から歩行練習できるまでになった事例A氏を通して～

キーワード

FIM
自立支援
みえる化

キーワードについては必ず3つ記入の事！！

特養、養護、軽費、ケアハウス、デイ、小規模多機能、GH、居宅老健、その他 いずれかを記載

施設種別	特養	施設名	特別養護老人ホーム 芦別慈恵園
------	----	-----	-----------------

	氏名	職種	備考
研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	① 中尾亮介	作業療法士	
	②		
	③		
	④		
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	芦別慈恵園
開設年月日	昭和44年12月7日	所在市町村	芦別市
市町村人口	14,472 人	65歳以上人口 (高齢化率)	6,386人 (高齢化率 44.1%)
利用者定員数	72 人	利用者平均年齢	88.1 歳
職員数	82 人	職員数内訳	介護職 34名 看護職 7名
併設施設・事業	短期入所生活介護、地域密着型サテライト型居住施設、通所介護、認知症対応型通所介護、訪問介護事業所、居宅支援事業所、配食サービス、地域食堂、サービス付高齢者住宅		
施設のサービスの概要	<p><施設理念>『和顔愛語』～人に優しい笑顔で、心は豊かに言葉は和やかに～<介護理念>①ひとりひとりの生活や暮らしを大切にします ②最後の時まで口から食べる食事の工夫をします ③ご家族と一緒に看取ります 施設、在宅、地域の方にむけて、委員会や学習療法を活かし、笑顔・元気になって頂ける取り組みを行っています。</p>		

発表の概要

<p>①取り組みだ課題 日頃のケアや委員会活動でお客様の生活が改善しても、何が良かったのか、どこが改善したのかはケアに携わった職員しか把握できていなかった。他の職員にも把握しやすくし、何が良かったのかを明らかにすることで、他のお客様にも生かせると思い平成29年2月より機能的自立度評価 (Functional Independence Measure=FIM)を導入することとした。</p> <p>②具体的な取り組み FIMは介助量を数値化する事ができる。運動13項目、認知5項目の計18項目からなる。運動項目はセルフケア (食事、整容、清拭、更衣上、更衣下、トイレ動作)・移乗 (ベッドと車椅子、トイレ、浴槽)・排泄コントロール (排尿、排便)・移動 (車椅子か歩行、階段)があり、認知項目はコミュニケーション (理解、表出)・社会的認知 (社会的交流、問題解決、記憶)がある。1項目7点満点で合計126点。1～5点は介助者が必要で、6～7点は介助者が不要。1点…全介助、2点…おおむね介助、3点…中等度介助、4点…軽介助、5点…見守り、6点…道具使用で自立、7点…完全自立。</p> <p>(1) 毎月のFIM採点 ・毎月のケアプラン更新者約10～15名の方が対象。 ・各ユニットリーダー4名から生活状況を聴取。 ・1ユニットにつき約15分程度の打ち合わせ。 ・打ち合わせ内容に基づいてFIMを採点。 (2) 職員全体への発信 (月1回の職員会議にて) ・お客様のFIMの点数の推移をシステムとエクセルで記録。 ・変化した内容を毎月の職員会議にて5分程度報告する。 (例：食事が1点→5点に。改善した要因として、姿勢保持のクッションが良かったのでは等) ・報告の際はFIMの数値だけでなく、写真や動画も用いる。</p>	<p>③活動の成果と評価 職員より「変化が数値で見れるのは励みになる」「今まで過介助になっていた部分があり気づけて良かった」等の反響があった。FIMの点数は病院だと片麻痺患者の自宅退院の基準などにも使われているが、特養においてはそういった基準が存在しない。今回当園に入居されている要介護度3 (26名)と要介護度4 (18名)のお客様のFIM点数を項目別に比較してみた。要介護度4の方は「清拭…身体を洗う、拭く動作がどれぐらい可能か」「トイレ動作…下衣の上げ下げ、お尻等を拭けるか」「排尿管理…失禁の回数や尿器等の管理ができるか」の3項目の点数が低い傾向にあった。他の、食事や整容、移乗動作等はそれほど差がなかった。このことから、清拭・トイレ動作・排尿管理における介助量の軽減を図ることでお客様の身体機能が維持される可能性が示唆された。</p> <p>④今後の課題 ・清拭、トイレ動作、排尿管理への介入。まず3つとも要介護度との関連が強くありそうだと毎月のユニットリーダーとの打ち合わせ時や職員会議にて発信 (介入例として清拭は座位保持する力のアップ。トイレ動作は立位保持する力のアップ。排尿管理は失禁の間隔をチェック等)。 ・今度は要介護度4と要介護度5の差について検討する等し、データを積み重ねる。</p> <p>⑤参考資料など ・第97回日本理学療法学会 要介護高齢者の運動機能と運動FIMの関連、林悠文 ・第53回日本農村医学会学術総会 要介護度とFIMの関係について ・沖縄県医師会ホームページ</p>
---	--

※「応募用紙」とともにメールにて【5月28日(月)】までにご提出ください→ roushikyo@dosityakyo.or.jp まで。